

日本機械学会中国四国支部シニア会特別講演会報告
「守るために変えて行く（新型ロードスターの開発）」について

日時 2017年3月6日（月） 13:15～14:15

会場 広島工業大学五日市キャンパス 三宅の森 Nexus21（6階）NX-603

題目 守るために変えて行く（新型ロードスターの開発）

講師 山本修弘 マツダ株式会社 商品本部 ロードスターアンバサダー

（2007年より4代目ロードスター主査に就任、2016年7月より現職）

広島県の移民を多数輩出した進取の気風や、縫い物針製造、やすり製造、造船などの「ものづくり」を盛んに行う風土を有する県民性に支えられた会社「東洋工業（現マツダ）」は、昭和20年のヒロシマ原子爆弾被爆直後からいち早く日本産業の復興を目指し、「オート三輪車」の製造を始めた。その後、マツダでは「ロードスター」という名車を生み出すことになるが、講演者は、マツダ入社ロータリーエンジン開発部に配属後、世界に通用するロータリーエンジン車を目指し、ルマン24時間レースに挑戦のチームに参加するもの、最初は、散々な成績であった。レースに教科書があるわけではなく、レースに参加したチームを訪れ、種々のノウハウを吸収し、ついには、ロータリーエンジンを搭載してルマン優勝の栄冠を勝ち得た。その後ロードスターの開発チームに入り、副主査、主査を勤めるようになる。車作りの主査とは、どんな仕事をするのか。例えると、オーケストラの指揮者のようなものだという。指揮者が楽器の特性をすべて熟知し、これを組み合わせて自分の意図する曲の演奏をするように、車の各部品の機能を知り尽くし、これを組み合わせて、設計、製造のみならず、販売戦略も含めて、主査の意図する車作りを纏め上げるのが仕事という。二代目、三代目と僅かずつ大きく重くなって行ったロードスターを四代目では原点に復帰させ、“守るために変えていく”という目標を掲げ、お客と同じ夢を追うという意味で“共創”を掲げた。チームのメンバーに呼びかけたことは、「世界一になろうよ」ということだった。

そして、今や2016年には「ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」と「2016ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」のダブル受賞の栄冠に輝くことになる。

機械学会での講演と言うことで、技術的な内容を紹介されるのかと思っていたが、もっと高いレベルでの哲学的な講演であった。マツダの車作りに対する姿勢の一端を伺うことが出来た格調高いものであった。

<参加者数：125名>